

第 229 回
定例探鳥会

日 時 : 2006 年 1 月 8 日 (日) 天候 : 晴れ
コース : 高来神社 花水橋 高麗大橋 平塚大橋

2006年最初の定例探鳥会は、集合時間の気温が-3 と厳しい寒さでしたが、真冬らしくカラッとした快晴に恵まれました。前日の吉沢・土屋の観察でも感じたことですが、今シーズンは冬鳥の姿が非常に少なくなっています。そこで、川の方が山の中よりも鳥を見られるだろうということで今回はコースを花水川に変更して、国道一号線に架かる花水橋から左岸(平塚側)を上流に向かって平塚大橋まで歩きました。

花水橋のすぐ上流でカルガモと一緒に泳ぐヒドリガモを見つけました。今シーズンはコガモよりも多く渡ってきているようです。上空をユリカモメの群れに混ざってセグロカモメが上流に向かって飛んでいきました。中州ではイカルチドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイが忙しく動き回っていました。岸辺の茂みではアオジ、カワラヒワ、スズメが出たり入ったりしています。高麗大橋までくると、上空を下流に向かってハシビロガモ()が飛び去りました。以前は花水川は県内で最大のハシビロガモの飛来地だったのですが、なんと約10年ぶりの登場です。水面に目を向けるとカワウとカイツブリが潜水を繰り返していました。バンとオオバンも泳いでいました。もちろんカワセミは何度もその美しい姿を見せてくれました。平塚大橋では3匹のタヌキの日向ぼっこまでおまけで見られました。

久しぶりに数多くの鳥を見ることができ、冬の川の探鳥会を楽しめました。

参加者		参加人数 23 名 (敬称略)		
1. 朝倉 輝美	2. 下倉 統一	3. 石川 未知子	4. 西花 きよみ	5. 福田 適
6. 南 博	7. 山田 文則	8. 武田 悦子	9. 古尾谷 七郎	10. 別所 三郎
11. 八木 正	12. 大谷 秋代	13. 小野 肇	14. 赤井 啓吾	15. 紺 龍彦
16. 片倉 暹	17. 富田 和之	18. 吉田 宣子	19. 田端 そら	20.(田端 裕)
21.(金子 典芳)	22.(内山 規矩雄)	23.(岩佐 昌夫)		

見聞きした鳥		種類数 39 種 (sp を含む)		
1. カイツブリ	2. カワウ	3. アオサギ	4. ダイサギ	5. コサギ
6. トビ	7. ヒドリガモ	8. コガモ	9. マガモ	10. カルガモ
11. ハシビロガモ	12. バン	13. オオバン	14. イカルチドリ	15. イソシギ
16. セグロカモメ	17. ユリカモメ	18. キジバト	19. ドバト	20. カワセミ
21. コゲラ	22. キセキレイ	23. ハクセキレイ	24. セグロセキレイ	25. ヒヨドリ
26. モズ	27. ジョウビタキ	28. ツグミ	29. ウグイス	30. シジュウカラ
31. メジロ	32. ホオジロ	33. アオジ	34. カワラヒワ	35. シメ
36. スズメ	37. ムクドリ	38. ハシボソガラス	39. ハシブトガラス	

渡良瀬遊水地・お正月鳥見紀行

お正月の休みを利用して、こまたんとしては珍しく有志 9 名が遠出バードウォッチングをしました。参加者の中で初参加の A さんの探鳥記をご紹介します。

2006 年 1 月 2 日(月)、天気(曇り～雨～晴れ)、気温(2～6 度)、無風

東北道を下りてコンビニで朝・昼食を調達。6 時ごろ鷹見ポイントの駐車場着、車内で朝食後、観察開始。

6:35～(駐車場で):カワウ 200+(遠くを列になったりまとまったりして過ぎていく)、ホオジロ、チュウヒ(ハイロチュウヒ?と騒ぐ)、コミズク(トビに追われている。「顔が無い、コミズクだ」と皆さん大喜び)、トビ、ノスリ(5.5km の立て札の上から 20 分以上動かない。顔と胸の黒いバンドがくっきり、ケアシノスリ??)、ハシブトガラス、モズ、ドバト(真白な 5 羽。後で橋の欄干に止まっていて足輪をしていたのと同じ?)

8:30～(歩いて移動する):キジバト、オオジュリン、セッカ、カルガモ、ジョウビタキ、シジウカラ、オオタカ、カシラダカ 10～12、シメ、ベニマシコ(セイタカアワダチソウの穂の先、お腹の赤が綺麗。そばにも)、スズメ

(無理に入った橋の上から):セグロセキレイ、タシギ 2、クサシギ(持っていた図鑑を総出で比べる。尻尾を上下に振る、で決まり)、カルガモ、イカルチドリ

9:00～(車に戻る途中):カワラヒワ 6、カルガモ 2、シジウカラ、チュウヒ、ダイサギ、ミサゴ 2、アオサギ、カワウ編隊 27、ウグイス

(車で移動。パイオトイレ有り):ツグミ、キジバト、チョウゲンボウ、ムクドリ、タゲリ(離れた草地?で採餌中)、カシラダカ 3、オオジュリン 2(道沿い目の前へ)

10:30～(移動しながら車中より観察。途中で雨が降り出す):チュウヒ、ツグミ、カシラダカ、オオジュリン、ヒヨドリ、カワセミ、キジ(車のすぐ脇をがさごそ奥へ。緑色を確認)、ホオジロ、ノスリ、コチョウゲンボウ(15mほど前方の枯れ木の樹上。「背中が灰色で腹がオレンジ色、間違い無し!」、ハクセキレイ 2、ホオジロ類(アオジ?尾の両側が白い)、ハシボソガラス、バン、オオバン、カルガモ、ヒバリ、キジバト 3、カワラヒワ、ミサゴ(首が白く後頭の短い冠羽がとがるのがよく見えた)、オナガ、カシラダカ、モズ

(最初の駐車場に戻り車内で昼食。雨が強くなる):ノスリ、ハシブトガラスペア(駐車場脇の看板に並んで一方が羽繕い、仲の良いところをずっと見せつけられる。雨中の恋人達)

12:30～(谷中湖へ車で移動。小雨になり傘をさして歩き出すがしばらくするとどんどん晴れてきた):コガモ、カワウ、ダイサギ、ミサゴ、カルガモ、ミコアイサ、ヒドリガモ、マガモ、ハジロカイツブリ、セグロカモメ、ユリカモメ、カンムリカイツブリ(顔が白く嘴が少しそる)、ヨシガモ、オカヨシガモ(合議の上)、ホシハジロ(背が灰色で頭が茶色)、カイツブリ、オオバン(白が小さい、若鳥?)、セグロカモメ、命名トモマガモ(Oさんが見つけた顔トモエガモ+体マガモのハイブリッド=交雑種)、カワラヒワ、トビ、ハクセキレイ、モズ、タヒバリ

14:40～(東橋。すっかり晴れた。日が照ると暖かく嬉しい):カイツブリ、カンムリカイツブリ(冠羽が黒い小熊の耳のようでかわいい)、カワウ編隊 23、トモエガモ 16、ミコアイサ、ハジロカイツブリ(嘴のピンク)

15:45～(最後にもう一度車で鷹見の駐車場へ。車が 10 台ほど観察中):チュウヒ(白い胸のよだれかけに杉の葉のような茶の模様がはっきり見えた)、コチョウゲンボウ(遠くの樹上を降りたり戻ったりしていた)、カワラヒワ、ダイサギ 2、ムクドリ

以上 58 種(1996, 2000, 2001 年過去三回に記録の無い初観察 タシギ、ミサゴ、タゲリ、キジ、コチョウゲンボウ) 渡良瀬遊水地は栃木・群馬・埼玉・茨城の四県にまたがっているそうです。どおりで車のナビが「ここから 県です」と何度も騒ぐ筈です。鷹見の駐車場に着くと曇っていて朝日は見えず、手袋を重ねてカイロをしてオーバーパンツをはいていても寒い。風が無いので助かりました。広々と四方を見渡すと遠くに男体山が雪をかぶっていた。本州で最大の遊水地、太陽が出ないと方向もわからない。洪水対策とはいえ明治の人はずごいと思うまもなく、まず遠くをカワウの群れ(200 以上)が長くなったりまとまったりして延々と過ぎていく。チュウヒも出る。「そのうち珍しくなくなるほど出るから」と言われたとおり V 字の滑空姿も 10 回くらい見られた)。まだ車を降りて 10 分ほどで「あれ何?!トビに追いかけてるの!顔が無いよ。コミズクだ!!」「出たねえ!」と皆さん大喜び。私が探している間の出来事でした。後で聞くと「期待してたよ。チェックは入れてた、コチョウゲンボウも」と。お正月早々願いが

なって良かった。そのコチョウゲンボウは車内からの観察中にくぐ前の木に止まっていた。タゲリ調査のときも不思議でしたが鳥は自動車を何だと思っているのでしょうかね。ちょっとこちらを見るくらいで平気である。カシラダカ、キジ、オオジュリンなど真横を通るまで逃げません。Kさんが大型10人乗りの救急車のような車をどんどん細道へ乗り入れてくれるので、いつも遠くの木にいる鳥が肉眼でよく見えたのには感激でした。コチョウゲンボウはまずコチョウゲンボウかと思われ、Oさんが「背中が灰色でお腹が赤茶色でしょ。コチョウゲンボウだよ」と言われ皆さん納得。Iさんが「久しぶりに鳥の種類が増えた。201種類目かな」と言ったのが印象的でした。クサシギを同定するのも大変でした。図鑑によって色合いも違うし写真ではわからないし記述もばらばら。皆さんの持っていた数冊の図鑑を全部見て何とか決まりました。シギ・チは難しいってこういうことだったのですね。移動中の車内からも双眼鏡を見ながら「ちょっと止まって下さい、あ、ごめんなさいホオジロでした」「ストップ！あ、カラスか」と言う声が何度も聞こえました。期するところの鳥たちは何だったのでしょうかね。カモを良く見たのも初めてでどれに感激していいのやら...目が黒くてパンダのような白いミコアイサが冠羽も可愛かった。「はよく似てるから調べておくと良いよ」といわれ、淡水ガモの雌の識別と海ガモを別に見ていたら、とんでもなくて、カイツブリもいて、さらにハイブリッド(交雑種)の雌なんてどうするんだろう...「見過ごしている場合が多いかもしれない」カモハンドブック(ふ、やっぱりね!)。カモ見には望遠鏡がないと無理ですね。詳しい方とご一緒にないためですね。次の機会も是非ご一緒させてください。



一面の草原は広大で穂が並ぶ姿は美しかったけれど細い道に入ると不法投棄が目につきました。廃車も一台あった。巡視の車にも会いましたが飲料水にもなる遊水地を汚すのは何故でしょう。いつか自分に帰ってくると、考えてほしい。帰途も思ったよりスムーズで夜中にならずに帰れました。帰省前だったのででしょうか。大きな車で楽しく効率よく行動できました。ずっと運転して下さったKさん、ありがとうございました。

【お知らせ】

湘南桜ヶ丘幼稚園探鳥会

2月14日(火)・17日(金) 10時から11時頃まで(9:45に幼稚園玄関前に集合)
恒例のかわいい園児たちとの観察会です。望遠鏡を持ってきてくださると助かります。

市民活動連続セミナー ～私が市民活動をしているわけ～

2月15日(水) 14時から ひらつか市民活動センター
『なぜ白鷺の数を数え続けるのか』のテーマで、花水川で行っているサギのカウントについて山田文則さんがお話します。主催：NPO法人”みんなで作る平塚” 参加費：100円

定例カウント調査

吉沢 & 土屋 2006年3月4日(第1土曜日)

鷹取山 2006年3月11日(第2土曜日)

午前7時に高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合、車で移動します。または7時15分までに、第1土曜日は松岩寺駐車場、第2土曜日は東の池に直接来られても結構です。参加の連絡は不要ですが、いずれも時間が来れば出発してしまいますので、時間厳守をお願いします。午前中に解散。雨天中止。

問い合わせ・連絡先

岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

鳥 報

こまたんメンバーのフィールドでの観察記録から主なものをご紹介します。

花水川・平塚大橋付近のサギねぐら調査

観察日	天気	アオサギ	ダイサギ	チュウサギ	コサギ	ゴイサギ	サギ合計	ムクドリ
1/6		1	0	0	0	0	1	約 250
1/10		0	0	0	0	0	0	約 2000
1/13		1	0	0	0	0	1	約 1500
1/20		1	0	0	0	0	1	約 1000
1/24		1	0	0	0	0	1	約 600
2/3		1	0	0	0	0	1	約 1000

平塚大橋上流の中州の掘削工事が続いており、その影響がサギ、ムクドリとも飛来数が非常に少なくなっている。

その他の野鳥情報

コハクチョウ

12月16日に花水川で観察されたが、金目川(北金目バス停付近)でも3羽が確認された(2月4・5日)。いずれも若鳥でくちばしの色が異なっていた。1羽はすべて黒色(写真の左)、もう1羽はピンクと黒色(中央)、最後の1羽は黒と黄色(右)。中州で草を食べていた。

写真：金子典芳さん



アマサギ

1月18日、平塚市西真土、1羽。朝6:50頃、2羽のコサギに混ざって畑にいた。くちばしが黄色で他の2羽よりも小さく見えた。飛び立った時に脚指が黒いことを確認できた。越冬个体か？

クイナ

1月29日、花水川(高麗大橋の下流)。左岸の岸辺を歩いていたが、草に隠れた。スコープで赤いくちばしを確認できた。

ミサゴ

2月4日、吉沢のカウント調査の時に、大きな魚(コイ?)をつかんで飛んでいるのを見た。

酒匂川(1月15日)

カルガモ、マガモ(数羽)、オカヨシガモ(数羽)、コガモ、ヒドリガモ、カワアイサ(7羽)、ウミアイサ(1羽)、カモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ

山中湖(1月23日)

ほぼ全面結氷しており、湖岸の2箇所の氷の張っていないところに、カモなどが集結していた。マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、カワアイサ、ミコアイサ、バン、コブハクチョウ

次回の定例探鳥会は2006年3月12日(日)です。午前7時30分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第228号 / 2月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www.komatan.jp/>

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>